⑲広島市豪雨災害伝承館

受賞機関　広島市 都市整備局

キーワード　防災まちづくり、教訓伝承

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成26年８月豪雨の被災地における広島市豪雨災害伝承館の整備。災害時には指定緊急避難場所として機能するだけでなく、災害の記憶を教訓として次世代へ継承するため、被災者が設立した一般社団法人による施設管理・運営が行われており、全国からの来館者を対象にした被災者による語り継ぎのための活動拠点として機能している点が評価された。

1. はじめに

平成26年８月20日、広島市の安佐南区及び安佐北区において、集中豪雨により大規模な土石流が同時多発的に発生し、災害関連死を含めて77人もの尊い生命が失われ、甚大な被害をもたらした豪雨災害から本年で10年を迎える。

被災地では、砂防堰堤や広域避難路となる都市計画道路の整備などの復興が進み、次第に街並みから災害の痕跡が消え、被災時の記憶や災害に対する危機感が希薄になりつつある中にあって、この災害を始めとする自然災害から得られた教訓及び知識を伝承し、市民の防災意識の高揚等を図るため、最も被害が大きかった被災地に、国の社会資本整備総合交付金（都市防災総合推進事業）を活用して「広島市豪雨災害伝承館」の整備を進め、令和５年９月１日の防災の日に開館した。

2. 事業の概要

豪雨災害から３年が経過した平成30年１月、被災地域の方々が災害の記憶と経験の伝承の場等としての拠点施設整備を盛り込んだ「復興まちづくりプラン」を策定して本市へ提出されており、本市は、被災者の強い想いを受け止めて施設整備することを意思決定し、施設の具体的な内容や展示レイアウト等について被災者と協議検討を重ね、災害から９年を迎えた令和５年９月に開館に至った。

施設運営は、被災者自らが一般社団法人を設立し、指定管理者制度を活用して運営を担っている。

施設の展示エリアでは、同時多発的に発生した土石流が急激な速さで迫りくる状況を再現したCG映像を始め、被災者インタビュー映像や被害の全容等のパネルを見学することができる。

また、最大120人収容可能な研修室では、様々な防災講習を受講することができ、毎月、国土交通省の職員を講師として招いて防災等に関する講演会なども実施している。

展示エリア

3. 事業の成果

令和５年度の来館者数は、目標3,500人をはるかに超えた約13,000人であった。地域の自主防災会や消防団、民生委員等の自治会組織、また園児、児童、修学旅行を含む生徒や大学生、研究者、さらに国、自治体の議員や職員の視察、企業など、県内外から様々な方々に来館いただき、防災・減災に関する学習の機会を提供している。

講演会の様子

4. おわりに

この伝承館には、「あのつらい思いを子や孫たち、そしてすべての人々に二度と経験してほしくない」、「またもし災害が起きても犠牲者が一人も出てほしくない」との被災者の想いが込められている。

ご来館いただければ、被災者自らの語り継ぎなどから、犠牲者を出さない未来のために、災害を「自分ごと」として捉え、自らの命を守るために、自ら判断し行動できるような「備え」を共に学び、持ち帰っていただけるものと考えている。